

(仮称)動物愛護ふれあいセンターについて考える ～県と同じ施設を近くに作る必要は?～

政令市になると、今までは県にやってもらっていたものの市で独自に行わなければならない事業が出てきます。飼い主がわからない犬猫の保護や小動物の飼い主からの引き取りなどもその一つです。

さいたま市ではこれを行うため、来年度予算に同センターに関する予算を計上しています。ところで、動物愛護には高木も賛成、また、これらの事業を政令市がやらなければならないことも納得ですが、新たに「建物」を建てる必要性については疑問に思っています。

なぜなら理由は、同じ名前の県の施設が予定地の近くに存在するからです。

因みに、その県の施設が手狭で動物たちを収容しきれなくなっているわけではありません。一緒に使えば使えるのに、わざわざもう一つ同じ施設を近くに建てようとしているのです。

確かに、県と同じ事務を政令市で独自にやるという場合、独自にやるからこそより良い運営を工夫することができるというメリットはあります。市では県にはない動物とのふれあい事業を実施したい計画のようですが、その目的に立つなら、今度は予定地が工場に囲まれたアクセスのよくない土地で不向きであり、独自でやるメリットがいかし切れていません。せっかく作るなら、多くの市民が利用する公園内などに作って、市民と動物がふれあい易い環境を整備すべきです。

市では県と5年以内に別施設を作る契約をしまっているものでどうにもこの計画は動かせないとはいっていますが、こんなにわかりやすいムダ遣いはないと考えます。皆さんはどう思われますか?

岩槻合併問題、市民への意向調査実施の方向

前号で取り上げた岩槻合併問題ですが、議会の側から市民への意向調査を求める声が強くなり、今年に入って市はその要請を「大変重く受け止めている」との回答をしてきました。又、3月23日の新聞報道で市は、市民への説明会を各区で行った後、「5月には市民に意見を聞く機会を設けたい。方法は検討中」との発表をしました。一歩前進ではありますが、問題は中身です。引き続き高木まりは意向調査に留まらず住民投票を実施できるよう働きかけを続けます。

(注:市長は2月議会の施政方針演説で「岩槻との合併には何ら支障がないと考える」とこれまでにないぐっと踏み込んだ姿勢を示す。)

(前号の訂正)

前号ご報告の議会審査形式変更に関する記事のうち、一部誤りがあり、訂正させていただきます。

(正) 予算特別委員会の質問時間=一日300分を委員数で割り、会派ごとに配分。委員一人あたり総質問時間(答弁含む)は11分。最終日の総括質疑では、120分を委員数で割り、会派ごとに配分。委員一人あたり総質問時間は6分。

プロジェクトミーティングのお知らせ

高木まりの市政報告をするとともに、会場の皆さんから様々な意見をいただく場です。ぜひお気軽にお出かけ下さい。(予約・参加費不要です)

5月16日(日)14時~16時 テーマ「岩槻合併を考える」
宮原コミュニティセンター 第4集会室にて

2月議会から

市も防犯に力入れると約束

2月議会では市の防犯への取り組みについての質問が集中した。それらの質問に、今回予算化された防犯推進員へのジャンパー貸与は一例で、とにかく注力すると繰返し約束。

鉄道博物館がさいたま市に移転決定

旧大宮市時代より基金も作り、誘致活動を続けてきたJR交通博物館の移転先がさいたま市大成町に決定。市は基金の他、周辺道路整備に協力し、集客に期待している。

新市民病院の建設に向け、基金創設。跡地にも診療機能を。

残念ながら耐震問題から建替えの為の移転が検討されていた市民病院だが、島根地区への移転が決定し、建設の為の基金が創設された。現病院の跡地には、引き続き診療機能を担保できるよう、付帯決議がなされたと同時に、同趣旨の請願も採択された。

介護予防を積極実施

介護度を軽くしたり、介護が必要な体にならないよう予防するのに有効とされる筋力トレーニングやスイミング指導に積極的に市が乗り出すことに。

新タワーは新都心に来る?

本格デジタル放送用の新タワー(600m級)建設、現在の候補地の中では新都心が最有力とのことだが、現東京タワー活用構想も消えていない。負担と将来性について考察要。